

(F) sections of *Cupressinoxylon* sp.

A: Bordered pits on the tracheids. B: Solitary spiral thickenings on the tracheids. C: Spiral thickenings in pair on the tracheids. D: Short wood parenchyma. E: Bordered pits on the tracheids. F: Relatively low rays. A, B and F: \times ca. 40. C, D and E \times ca. 160.

○ヤクシマヤマツツジについて (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Rhododendron yakuinsulare* Masamune

屋久島は本州から南下したものと、琉球・台湾から北上したものがいりまじって、多くのツツジ・シャクナゲ類が見られる。その一つにヤクシマヤマツツジがある。これは大井次三郎氏や北村四郎氏の著書には認められていないが、明らかな特徴をもつ植物群であり、初島住彦氏は明らかな種類であるとしている (北陸の植物 7: 19, 1958)。雄しべが 10 本であることでヤマツツジとは異なる。葉は大きく、一見奄美大島のケラマツツジに似るが、冬芽や花に全く腺毛がないので異なる。一番近いのはタイワンヤマツツジ *Rh. simsii* と思われる。然し後者は葉は小型で、がく片も小さく、果期にも普通大きくならない。ときにがく片が大きくなるがその形は披針形である。ヤクシマヤマツツジは葉は狭だ円形で大きく、がく片は広だ円形で果期 5-6 mm となる。若枝には斜上する剛毛があるなどタイワンヤマツツジと異なる。然しこれらの性質の各々は、華中、華南、台湾、琉球に広く分布するタイワンヤマツツジの変異内に含まれるので、その変種と考えるのが適当であろう。然しまだ問題が残っている。初島氏 (1958) は、屋久島にもタイワンヤマツツジそのものがあることを報告している。私も 1961 年に永田の海岸にあるマルバニッケイ林中で、タイワンヤマツツジと思われるものを採集した。これはヤクシマヤマツツジに比べると、葉はやや小さく丸みをおび、茎の毛は伏して開出ししない。屋久島に両者がある点からすると、両者の関係はもっと密接で、中間的なものがあって連続する可能性もあるが、今の所ヤクシマヤマツツジの形は明らかに区別できる。屋久島の海近くの岩上にはマルバサツキも見られる。これはしばしばタイワンヤマツツジの変種とされるが、花弁は肉質で厚く、花期も遅く、サツキの系統である。台湾のウライツツジ *R. kanehirai*, ナカハラツツジ *R. nakaharai*, マルバサツキ *R. eriocarpum*, サツキ *R. indicum* が一連のものであり、タイワンヤマツツジは華中・華南に広く分布し、台湾、琉球から屋久島にまで広がり、日本のヤマツツジに近縁のものと考えられる。

(東京大学理学部)

***Rhododendron simsii* Planch. var. *yakuinsulare* (Masamune) Yamazaki stat. nov.**

Rhododendron yakuinsulare Masamune in Trans. Trop. Agric. 2: 38 (1930).

Distr. Southern Kyushu, low altitudes of Is. Yakushima.